2019年2月23

老子会会報

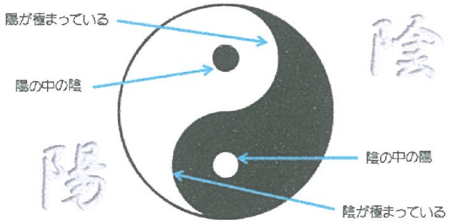
老子会　主催

第014号

老子会のモットー

「老子の道の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

陰陽太極図



陰陽太極図や**陰陽**魚とも呼称される。『易経』繫辞上伝にある「易に**太極**あり、これ両儀を生じ、両儀は四象を生じ、四象は八卦を生ず（易有**太極**、是生両儀、両儀生四象、四象生八卦）」に由来し、宋易（宋代から興起した朱子学系統の易学）や道教において重視された。 **太極図**は歴史上、さまざまに描かれてきた。
(Wikipedia　ウィキペディアからの引用)

この図は古代中国から道教のシンボルである。

荀子の勉強について

原文

不聞不若聞之、聞之不若見之、見之不若知之、知之不若行之。學至於行之而止矣。

…『荀子』・儒效より抜粋

書き下ろし文

聞かざるは之（これ）を聞くに若（し）かず、之を聞くは之を見るに若かず、之を見るは之を知るに若かず、之を知るは之を行うに若かず。學は之を行うに至りて止（や）む。

現代語訳

聞かないことは聞くことに及ばない、聞いたことは見たことに及ばない、見たことは知る（理解する）ことに及ばない、知ったことは行った（実践した）ことに及ばない。
学問（の目的）は実践に至って（初めて）終わるのである。
人は学んで得た知識を吸収し理解していても、実行して初めてその人の血となり肉となるものである。

荀子について

中国戦国時代末期の思想家、儒家の荀子（紀元前313年頃 － 紀元前238年頃、詳細不明）は学問の究極の目的は実践にあると説いた。
知識を単に知識として終わらせるのではなく生きた知恵とするには、小さなことでも実行してみることが大切である、ということを言っている。

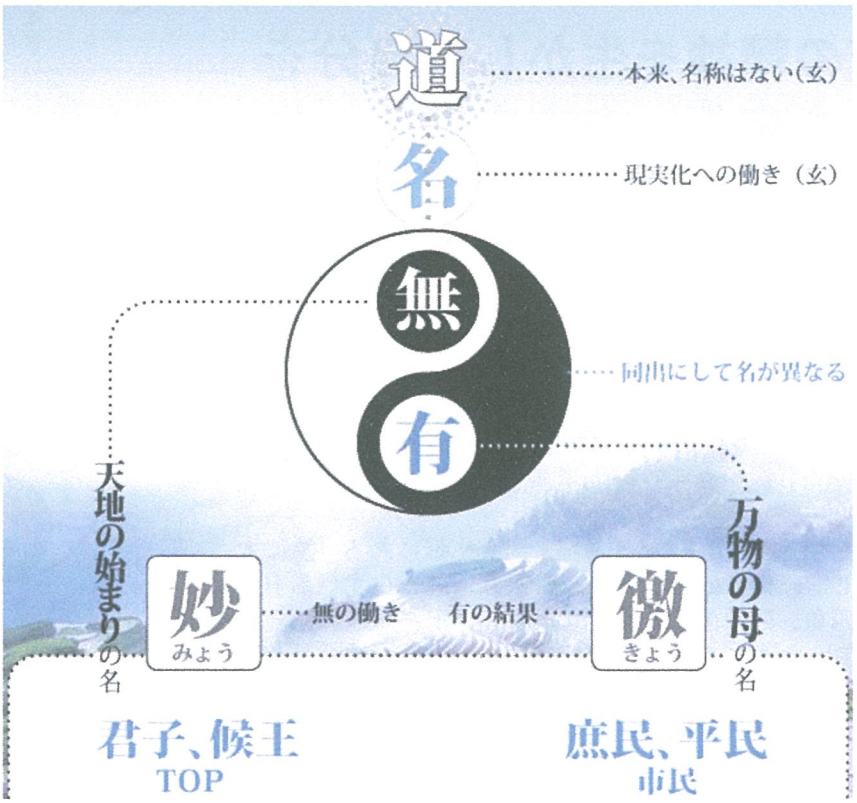
まとめ

「勉強方法」について、**聞⇒見⇒知⇒行**(學は之を行うに至りて止む)

第５９回老子会から

第59回の老子会は2019年1月12日(土)15:30～17:30毎日文化センターで実施しました。今回は第57回、58回の勉強会の後、多数の方から「天」について、話していただけないかとの声がありましたので、内容を変更して、特別講座として**『「天・地・人」について』**を取り上げました。その内容を紹介しました。

「天・地・人」について



第二十五章

原文

有物混成、先兮、獨立不改、爲天下母。吾不道。強爲之名曰遠、遠曰反。故大、王亦大。域其一。**人法地、道法自然。**

書き下ろし

物有り混成て生ず。寂（せく）たり、独立ず、周行して殆以（も）って天し。吾（わ）れこれに字（あざ（い）う。強天地生。寂兮寞周行而不殆。可以知其名、字之曰大。大曰逝、逝曰道大、天大、地中有四大、而王居**地法天、天法道、**し、天地に先んじき）たり寞（ばして改（かわ）ら（とど）まらず。下の母と為すべその名を知らず、な）して道と曰（し）いてこれが名を為して大と曰う。大なれば曰（ここ）に逝（ゆ）く、逝けば曰に遠く、遠ければ曰に反（かえ）る。故に道は大、天も大、地も大、王もまた大なり。域中（いきちゅう）に四大（しだい）あり、而（しか）して王はその一に居る。**人は地に法（のっと）り、地は天に法り、天は道に法り、道は自然（じねん）に法る。**

現代語訳

混じり合った物があり、それは天地より先に生まれた。無音で静かにして無形、何ものにも頼ることなく、変化もなく、あちらこちらへと活動しとどまるところがない。それは思うままに振舞うという人間の本性（母性）そのものだ。わたしはその名を知らないが、「道」と命名する。あえて別の言い方をするなら、「大」と呼ぼう。「大」であればいつまでも活動し、いつまでも活動すれば果てしなく遠くまで動き、果てしなく遠くまで動けば再び元の場に返る。よって、「道」がこの「大」の性質を持つように、天も「大」であり、地も「大」であり、王もまた「大」である。この世界にはこれら四つの「大」が存在し、人を統べる王はその一つであらねばならないのだ。人は地に習い、地は天に習い、天は「道」に習い、「道」はあるがまま・流れのままである。

解釈

老子はここで、人間は道である自然の動きに法（のっと）り習い従うことを説いている。「道は通じて一と為す」とは、「万物の一体」のことで、万物は斉（ひと）しく同じである（「万物斉同」）。

「大なれば曰（ここ）に逝き、逝けば曰に遠く、遠ければ曰に反（かえ）る」を『易経』では、**陰陽魚太極図**に示された陰陽の消長する運動体が万物であると観た。

「わが命は、われに在りて、天に在らず」とは、道より与えられた運命と寿命は自分の力でマネジメントするもので、天により決め定められたものではないということ。すべての生命（いのち）には、主体性が備わっている。

芭蕉の自然は老子からの影響

「人法地. 地法天. 天法道. 道法自然」（人は地に法り. 地は天に法り. 天は道に法り. 道は自然に法る）

「中庸」や「老子」に造詣が深かった芭蕉が確立した蕉風体. 俳諧の理念を表す言葉として用いたと言われている。伊賀市にある芭蕉翁顕彰碑には「自然. 注に曰. 天に従ふを道と謂ひ. 道に従ふを自然と謂ふ」という名句が刻まれて位。（伊賀市ホームページからの引用）
いる

天はあなたの味方？

人間は仕事にしてもプライベートにしても、「どうして自分だけがこんな理不尽な目に遭わなくちゃいけないんだ！」、「自分だけが損をしているような気がする。」などなど、そんな被害妄想に陥ることは、誰にでも有り得ること。

そこでいかにして気持ちを切り替え、モチベーションを上げていけるかが「その後」の結果を左右すると言っても過言ではない。

「どうせ自分なんて」と腐ってしまえばそこで終わり。

「いやいや、ここが踏ん張りどころ！」と奮起できれば自分なりに満足できるゴールまで辿り着けるかもしれない。

老子によれば、**「天はえこひいきなどしないもの。」**

太陽や天の神（が本当に存在するかどうかは置いておいて…）は、地上の全てに対して平等の立場であり、私たち人間を含めた万物を絶対的に「公平」、「中立」な目で見守っている。
そんな「天の在り方」について説いている。

「天道無親、常与善人（天道は親なし、常に善人に与す。）**」**

天の道にえこひいきなどはなく、常に善人に味方しているものだよ。だから、恨み言など言わずに、私利私欲に走らず、天から与えられたものを大切にして**「あるがまま」に生を楽しみなさい**、と言うのである。

天は見ている！

子供の頃、「隠れてこそこそと悪いことをしていても、天の神様はしっかり見ているゾ」と、両親や祖父母に戒められた記憶はなかろうか？

実はこの言葉、老子の教えに由来している。というのも、老子は**「天は絶対的に中立で公平な立場で私たちを見守っている」**と教えている。**「天網恢恢、疏而不失**（天網恢恢、疏にして失わず）**」**のことである。

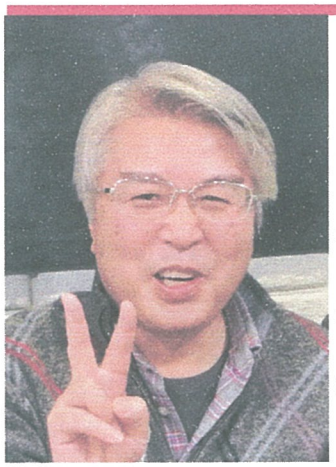
天の網は広大で粗いが、どんな悪人も取り逃がすことはない。つまり、隠れて悪いことをしても、天は必ず見ているのだよ、そして、最後には善人に味方をするものなんだよ。だから悪いことはするもんじゃないよなどということだね。

「悪いこと」というのは、凶悪な犯罪でない限り、意外と人にはバレなかったりするものであるが(笑)、天は必ずそれを見ている。その時には何らお咎めがなくても、人生をトータルで見ると、必ずどこかで裁きを受ける。その人自身が裁かれることがなくとも、長い目で見れば子孫に悪影響がふりかかってくるかもしれない。

究極的には、もし「来世」というものが本当にあるのだとすれば、現世での悪事の「ツケ」を来世で払うことになる可能性もある。これらを**「天は、あなたの行いを全て見ている。」**と解釈しているのである。

ちょっと気の緩みから悪いことに手を染めてしまいそうになったら、どうか老子の言葉を思い出して踏みとどまって下さい。

老子会の『人』柴崎　博誠さん



柴崎博誠さんは滋賀県彦根市出身。

中国の古典文学（水滸伝、紅楼夢、金瓶梅、西遊記など）が好きで、中国に関心があったことから「日本技術士会近畿本部」の中国研究会に所属されています。

胡金定先生とは、先の技術士会の関連で「中国科学技術協会」の講習会の講演会に参加した際、懇親会で知り合われました。

「とてもエネルギッシュで魅力的な方」との印象を受けられたようで、以来、老子会の勉強会に参加されています。

大学卒業後は「建設コンサルタント」として約40年間活躍、航空測量会社の㈱パスコにて「道路・橋梁の設計や調査・点検」に従事されました。

最近は、高度経済成長期から50年以上経過した社会資本の老朽化と自然災害の増加に伴い「命を守る国土強靭化」に関連する業務が急増。それらに対応するため、主に「社会インフラの補修・補強などの維持管理業務」を手掛けていらっしゃいます。

また、会社内では「安全管理者」と共に、先の中国研究会で「会計役員」の任も務めています。一貫して、内外の「安心・安全」に携わっている柴崎さん、「会社をフリーになったら、経験を活かし点検ボランティアなど、少しでも社会貢献できれば。」と仰っています。

中国研究会での取り組みなど、お聞きする機会があればうれしく思います。

（余保充徳）

＜老子会の皆さんへ＞

異業種の方ばかりですので、老子会はとても新鮮味があります。**「一期一会」**を大切に、水が流れるがごとく、自然に謙虚に参加していきたいと思います。

（柴崎博誠）

事務局からの「第５９回老子会」のご報告

老子会の皆様には、いつもご協力頂き誠にありがとうございます。1月は毎日文化センターにおいて26名出席の中、前段は「老子マンガ」をフリートークしました。準備不足もあり活発な意見が出ず、反省が残りました。特別講義では「天命」について学び「高齢化が進む日本は50歳以降のライフスタイルを本気になって考えるべき。」との指摘を胸に刻みました。交流会には新たなメンバーが加わり16名の参加で大いに盛り上がりました。3月は恒例の学外研修「西郷どん九州の旅」を実施します。　　石井　政　事務局長

【今後の日程】

４月２７日（土）老子会　学習会　会場未定
５月２５日（土）老子会　学習会　会場未定
６月２９日（土）老子会　学習会　会場未定

※いずれも終了後に懇親会の予定です。

老　子　会

〒658-8502
神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

電話: 078(435)2353
携帯番号:090-9169-2820(事務局長)
FAX: 078(435)2545
E-mail　kokintei@konan-u.ac.jp